

と約四十分で金比羅山に着きます。ここには海の守護神と豊業殖産の神を祭る金比羅神社がありますが境内はきれいに掃き清められ、土地の人々の信仰の深さがうかがえます。

右手に海を眺めながら約三十分でコースの終点(起点)高舞登山に着きます。ここは千巖山と共に国の名勝に指定されており、天草五橋が望める素晴らしい展望所です。また近くには天草唯一の装飾古墳である大戸鼻古墳や、代官が不知火を眺めた場所といわれる「不知火塚」など見どころも多いところです。

(あし) 本渡から尾串までバス一時間三十分、熊本市から松島までバス一時間四十分

(コース) 延長二十五・二キロメートル

尾串⇄竜ヶ岳⇄念珠岳⇄二弁峠⇄白岳⇄金比羅山⇄高舞登山

## 洋風設計の港情緒 案外多い見どころ

### 三角岳登山 コース

<家族向き・日帰りに>

このコースの起点(終点)である三角町には、意外と知られていない見どころが多くあります。かつて明治三大築港の

一つと言われ、約四年の歳月と当時の金で約三十三万円の工費をかけ明治二十年に完成した三角西港があります。

オランダ人技師ルーエンホルスト、ムルデンの設計によるもので、港の建設の他に約六万平方メートルの市街地の都市計画と熊本市までの約三十五キロの道路及び大小六十一の架橋を併せた画期的な大事業でありました。

現在でも大きな石材を使った西洋風切石積の埠頭岸壁など当時の面影は非常によく残っており、文化財としても貴重なものです。

港と町を見下ろす丘には町立九州海技学院があります。元来は宇土郡役所として明治三十五年に建てられたもので、県下でも数少ない明治洋風建築であり、あたりにはエキゾチックな雰囲気も漂い、一見の価値があります。又近くには金桁鉱泉があり旅の疲れを癒してくれます。



コースへは、国鉄三角線の終着駅三角駅で下車して歩くこととなります。右手に三角東港の賑わいを見ながら町役場前を通り山道へ入ると、約一時間で天翔台に着きます。海と山の素晴らしい眺めで、海には漁船が浮び島原行きのフェリーが航跡を残しながら進むのが小さく見えます。

更に雲龍台まで三十分、ここから四十分でコース最高峰の三角岳(四〇六メートル)に着きます。三六〇度のパノラマが広がり天草五橋や遠くには島原、雲仙がかすみの中に見えます。三角岳を一時半程下ると分岐点に出、右はコースの続きで、宇土半島を縦断することになります。コースの終点(起点)である太田尾海水浴場へは約四十分の道のりです。

このコースは、三角町の明治の遺跡を訪ねた後に歩けば社会、歴史の勉強にもなり、家族連れに最適と思われれます。



## 「草枕」の道いままも 多面的な憩いの場

### 金峰山探勝 コース

<家族向き・日帰りに>

(あし) 熊本市から三角まで国鉄約一時間、バス一時間二十分、太田尾までバス一時間十分

(コース) 延長八キロメートル  
三角町⇄天翔台⇄三角岳⇄太田尾

熊本市の北西、島崎町の岳林寺からこのコースは始まりますが、近くには熊本市立ユースホテル、三賢堂、島田美術館、広山焼の窯元など見どころがあります。

岳林寺でバスを下り荒尾橋へ。沢に沿った鎌坂を登りますとその名のとおりかなりの難所ですが、一時間で峠の茶屋に着きます。夏目漱石の「草枕」の一節を頭に浮かべながら左に折れ金峰山へ向きますと大友宗麟(菊池義武との説もある)が陣を張ったと伝えられる大将陣まで三十分着きます。この近くには野外活動のための少年自然の家があり利用者が賑わいます。

更に進むと金峰山の登り口に着きます。コースは緩やかな坂の回り道ですが、各所にサスすべりがあり、その名の

とおりの急勾配で途中で息があがってしまいます。山頂からの眺望は素晴らしい熊本市街はもちろん阿蘇、雲仙が一望に見渡すことができ、山々にはミカンの段々畑が続きしばしば疲れを忘れさせます。登山家の気持が分るようなところ。下りは楽で約五十分で平安朝の昔創建されたと伝えられる雲巖寺に着きます。この奥の斜面には、石工了善が安永八年(一七七九)から二十四年間をかけて彫ったという五百羅漢があります。一つ一つの表情が全て異なり、厳肅というよりもユーモラスな羅漢さんたちです。

雲巖寺の奥の院が岩戸観音を祀る靈巖洞で、劍聖宮本武蔵が二天一流の奥義「五輪の書」を著わした場所として知られています。またこの先の鼓ヶ滝一帯は肥後耶馬溪と呼ばれ、市近郊での数少ない紅葉の名所です。

ここから古閑地区を通り、ミカン畑の中をノンビリ一時間十分ほど歩くと、コースの終点(起点)である野出に着きます。

このコースはハイキングコースとして知られていますが、歩いてみると新しい発見が沢山あり改めてふるさとの良さを見直すことができます。

(あし) 交通センター発荒尾橋行き、岳林寺まで十五分、センター発芳野経由小天行き、野出第二バス停まで三十分(コース) 延長十六・二キロメートル  
岳林寺⇄峠の茶屋⇄金峰山⇄岩戸観音

## 西南の役の跡残る 西瓜・木葉猿の里

### 田原坂・二の岳 コース

<家族向き・日帰りに>

金峰山探勝コースの終点(起点)である野出から、このコースは始まります。

野出から山道を登りますと、道の両側の雑木林からは鳥の鳴き声を聞くことができます。かなりの急坂ですのでゆっくりかけて二の岳の山頂を過ぎるといいでしょう。山頂は三六〇度のパノラマが広がり、阿蘇、有明海、雲仙岳、宇土半島と四方が望め素晴らしいところです。

ここから三の岳の山頂まで五十分、更に一時間で西南の役の激戦地、吉次峠に



着くことができます。のちに済々僖を創立した佐々友房が奮戦したところで、近くには中央に記念碑が建つ吉次公園があります。

半高山、横平山を抜け国鉄鹿児島本線田原坂駅まで約一時間、更に田原坂公園まで三十分、公園の正面には県木であるクスの大木が葉を広げ、周囲にはツツジが植えてあり季節には咲きほこります。又野外音楽堂でのコンサートも楽しめます。

当時の田原坂は、北から熊本市へ向かう唯一の幹線道路で他に大砲を運べる道路がなく、明治十年三月三日から二十日までの十八昼夜にわたる戦闘では、一日数十万発の弾丸が飛びかき官軍の戦死者だけでも三千名にのぼったといわれています。公園には歴史資料館や弾痕の家があり、西南の役の際一萬三千八百二十二柱の名を刻んだ慰霊碑が激戦を偲ばせます。また植木町は味、量ともに日本一を誇

るスイカの産地で、「植木スイカ」として全国に出荷されていて、町内には小野小町が産湯を使ったと伝えられる小野泉水や古い時代の古墳など見どころが多くあります。

田原坂からコースの終点(起点)木葉まで二十五分、近くには高月官軍墓地や全国土俗玩具番付表で東の正横綱に選ばれた木葉猿の窯元があります。元来は悪病、災難のがれ、子孫繁栄の守り神として信仰され、後に玩具として広まったものです。現在では全国から多くの注文があります。

このコースは我国最後の内乱西南の役の激戦地で、勉強をかねて家族連れに最適です。

(あし) 交通センター発芳野経由小天行き、野出第二バス停まで三十分、熊本市から木葉駅まで国鉄鹿児島本線で三十分

(コース) 延長二十一キロメートル  
野出⇄二の岳⇄三の岳⇄吉次峠⇄半高山⇄横平山⇄田原坂⇄薩軍墓地⇄田原坂⇄木葉駅

### 利用上の注意

- 一、自然歩道にはチリ籠は設置していません、チリは必ず持ち帰りましょう。
- 二、自然を大切に、木や植物を折ったり持ち帰ったりしないように。
- 三、山火事を起こさないよう、特にタバコの吸殻に注意しましょう。

(観光振興課)